

## 評価結果概要表

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105677
法人名	有限会社 司
事業所名	グループホーム つかさ
所在地	愛媛県松山市浅海原甲405番地
自己評価作成日	平成26年9月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年9月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは海に面して建っており、窓からは広大な瀬戸内海やその島々を眺めることができます。利用者はその雄大な景色を眺めながら、ゆったりとした時間のなかで日々の暮らしを過ごされています。職員は利用者についてまでも生活力を失わず、役割や生きがいを持ち、一人の人として自分らしく暮らしていただきたいと考えています。そのために日々の家事活動や地域の奉仕活動を共に行き、個々の行きたい所やしたいことを大切に、一緒に行える支援に取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

公民館で行われている地域の夏祭りや小学校の運動会では、普段から交流している小・中学生や保護者、地域の方達も来られており、一緒に楽しむ機会となっている。自宅にいるご家族のことが心配な方は、職員が時間や回数等をご家族と相談して、毎日電話でお話できるよう支援されている。毎月、自宅で一泊する方は、寿司やうなぎ等をご家族と食べたり、お話をするのを楽しみにされており、自宅に帰る前には必ず、職員が同行して行きつけの理容店で散髪する習慣になっている。利用者の百歳のお誕生日記念に、管理者が事業所での暮らしを編集したDVDをご家族にプレゼントされて、ご家族にたいへん喜ばれた。利用者の米寿等のお祝いは、ご家族と一緒に祝えるよう、案内されている。

利用者全員の希望を毎月の献立に反映しており、調査訪問時も利用者の希望を採り入れて、すき焼き風煮物や、もやしのナムルを作っておられた。もやしは、利用者が根とりをされており、衛生に気を付け、すき焼きには、温泉卵を添えておられた。食事中、職員は「今日は〇〇さんがお好きなメニューですよ」と説明されていた。配膳や下膳、食器を洗ったり拭いたりする利用者も見られた。

### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム つかさ

(ユニット名) かもめ ユニット

記入者(管理者)

氏名 竹田 友和

評価完了日

26 年 9 月 10 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人理念や運営理念をホーム内に掲示している。毎朝・夕の申し送りにてご利用者の対応方法について検討し、その際に理念に沿って行えているかを考えながら話し合いを行うようにしている。 (外部評価) 運営理念を「満足いく生活をする為に 個人の自由と尊厳を守り 優しく温かい心を持って 接します。」と作成し、各ユニットに掲示されている。管理者は、申し送りや職員会時、職員に「理念に照らし合わせながらケアするように」と話しておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の小学校との継続的な交流を計画し、校長先生に依頼して活動が続いている。それにより秋の焼き芋大会、慰問訪問、寄せ植えの寄贈など地域の子供たちがホームを訪れる機会は段々増えてきている。8月の夕涼み会では、小学生達に招待状を出し、ホームに来て頂けるようにも取り組んだ。 (外部評価) 玄関には、来訪者が手にとって見たり、持ち帰れるように事業所便りを置いておられる。年2回、地域の小学校が行う海岸清掃があり、毎回、利用者も参加されている。又、小学校の運動会の折には、利用者も子ども達の応援に出かけておられる。恒例となっている事業所の夕涼み会には、今回、初めて小学校の児童宛てに案内状を届けられた。当日は、子ども達の保護者、地域の方達が集まり、利用者職員が一緒に手作りした屋台の料理を食べたり、お話し等して楽しい時間を過ごされた。中学生の職場体験がきっかけで、その後も数名の中学生が遊びに来てくれており、一緒におやつを作ったり、ダンスを見せたりして楽しませてくれている。又、夕涼み会にもボランティアとして手伝ってくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議において、民生委員の方より近隣の方や知り合いの方の介護のことで相談を受けるなど、認知症支援についての発信や相談所としての役割が発揮できつつあると思う。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議ではホームの様子を映像や写真で見ていただき、その中でどのような支援が行われているかを具体的に話し合えるようにしている。近隣の小学校の先生も参加していただき、地域や小学生達とどのように交流していくか相談させて頂いたり、当ホームでの取り組みと参加者のご家族の利用されているサービスとの比較などにて悩みや疑問への検討が行われている。	
			(外部評価) 会議には、民生委員や地域の小学校長、ご家族、利用者等が参加されており、事業所からの近況報告後は、テーマを決めて意見交換されている。学校関係者や市の担当者等は定期的な交代するため、計画を立てて2年ごとに、グループホームや認知症の理解、又、事業所の取り組み紹介や勉強会の機会等を作りながら、会議をすすめておられる。今年度の会議では、職員が立てた献立を紹介しながら、食材の品目数や栄養素等を詳しく説明する機会を設けられた。又、風邪やインフルエンザの流行する時期には、「高齢者に必要な栄養」というテーマで、風邪予防のための献立の見直しについても報告された。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 松山市介護保険課に運営推進会議の案内を出し、毎回出席して頂いている。また他にも毎月の地区連絡会議にも参加し交流をもつことで、日常的な相談を電話等でもできるような関係性の構築に努めている。	
			(外部評価) 管理者は毎月、北条地区の連絡会議に参加しており、同業者と一緒に「福祉用具の点検」「オムツのあて方」「認知症とコミュニケーションについて」等について勉強しており、資料等を用いて内部研修を行っておられる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設の門扉は日中は常に開放し、花を飾るなどして開けた施設の雰囲気をつくろうと努力している。職員は身体拘束になる行為について学ぶ機会を持ち、施錠を含めて取り組みを行っている。しかし言葉での拘束を含め、お年寄りが本当に自由に暮らしていけるホームを目指し、継続して勉強会や日常の中で話し合いを行っていきたい。	
			(外部評価) ベッドから転落する心配のある方には、床にマットレスや布団を敷き、這ってお好みに動けるようにしている。居室にある物を窓から外へ投げ捨てるような方には、現在、物品等を別室に移して、必要な時に取りに行く等して対応されている。居室で過ごす時間は、職員が頻回に様子を見に行くようにして、安全に過ごせるよう見守りをされている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員は虐待防止法について勉強会にて学び、虐待の防止に取り組んでいる。しかし、利用者の気持ちや要望を満たし、我慢したりすることのない生活を送るために、繰り返し勉強の機会をつくるようにしたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者や一部の職員は制度に付いて理解しているが、全員ではない。今後勉強会などを通じて全職員が理解し、各職員が担当の利用者に制度の必要性を感じたときに、関係者と協議できるように取り組みたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は見学に来て頂いたり、訪問する等して管理者が利用者、家族と十分に協議し、不安や疑問点を解消できるよう話し合いを行っている。また介護計画作成会議の時などにも話ができるよう努め、利用者の状態変化があった時には、管理者と臨時の介護計画会議を持ち、今後の対応について話し合うようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者には日々の言葉を記録に残すようにし、家族は家族会や介護計画作成会議時、面会時、運営推進会議等に話す機会を設け、また玄関に意見箱を設置し、それらを検討し運営に反映させている。また家族会や運営推進会議に参加されていないご家族様には議事録を送付し、内容について知っていただくように取り組んでいる。 (外部評価) ご家族には毎月送付している書類とともに、職員が利用者の様子を書いた手紙や季刊誌を同封されている。季刊誌「つかさ便り」は、利用者のベストショット写真を表紙にして、事業所の取り組みや健康に役立つ話、施設長のつぶやき等、ご家族が興味を持って読めるような構成に工夫されている。夕涼み会やクリスマス会時は、行事の前に家族会を行うようにして、ご家族に案内しており、ご家族同士の交流の機会にもなっている。	



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は毎日の申し送りで日々の悩みを聞いたり、日常の中で職員個々と話をし、意見や提案を聴き、代表者と会議して運営に反映させるようにしている。また、毎月の職員会議には代表も参加し、各業務毎の担当者と意見交換を行い、よりよい運営がなされるよう協議を行っている。	
			(外部評価) 職員は、サービス向上委員会の「生活・広報・安全」3つの担当を毎年交代で担当されている。広報担当は、事業所便りの誌面構成や内容を管理者と一緒に考え作成されている。職員会には毎回、法人代表者も参加されており、職員は、物品購入の希望や職員の提案を出し、話し合われている。新人職員からの「居室の清掃」についての気付きを機に、毎月、大掃除の日を決め、ベッド下や細かい所を清掃するよう取り組まれている。アレルギー体質の方の居室は、特に念入りに掃除されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業所で独自のキャリアパス制度を導入し、職員が目標を持って働いたり、スキルアップに取り組めるようにしている。さらに代表者は毎月の職員会議に参加したり、管理者と運営会議を行うことで、職員のやりたいことが実現できるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者は毎月勉強会を行い、新たな知識や技術を学ぶ機会を設けている。また、日常や各担当の業務の状況や悩みを聞く中でアドバイスをし、気づける力を育むようにしている。外部の研修にも年1回の参加を呼びかけ、出勤として参加できるように取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 代表者は積極的に他事業所との交流を進め、管理者も毎月の地区の調整会議に出席して交流を持てるように取り組んでいる。今後地域の同業者との交流をさらに深め、ネットワークづくりや相互訪問が行えるよう取り組みたい。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用する前に管理者が訪問して、本人の思いを聞く機会を設けたり、見学に来ていただいて他利用者とは過ごす時間を持つようにしている。また入所時には担当職員を決め、本人の思いや要望を聴くようにすることで安心していただけよう取り組んでいる。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス相談時、見学時、家族宅への訪問相談時に、家族と多く話し合う機会を持てるように取り組んでいる。その際に不安なことや要望を出来るだけ多く聞くことができるよう取り組んでいる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 管理者は利用相談を受けた際に、御本人の状態や家族の状況、それぞれの思いを聞くように心掛けており、状況に合わせた支援を受けることができるよう相談・助言を行っている。ケースによっては地域包括支援センターと協力し、相談支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者の出来ること、出来ないことを把握するように努め、出来ることを一緒に行えるように取り組んでいる。ただ以前に比べ、ご利用者の身体機能の低下などから行えることが減ってきているため、少しでも何か出来ることは無いかを日々の中から見つけ出し、行えるように取り組みたい。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は面会時に近況の報告をしたり、毎月の行事、生活、受診の様子を手紙でお送りするなどして、本人の様子を知って頂けるよう取り組んでいる。さらに介護計画作成会議の際に一緒に本人を支援する方法を考えていただいている。ただ、ご家族の面会も減ってきており、面会に来て頂きやすい環境づくりを取り組みたいと考えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご利用者の中には毎日ご家族と話したいとの希望で、ご家族と相談し、携帯電話を持って頂いている方もおられる。またご出身の家の様子が気になる方にご家族に協力して頂いて外出して見に行かれる方もおられる。今後他の利用者の方にもそういった機会が持てるようご家族と共同して取り組みを行いたい。  (外部評価) 公民館で行われている地域の夏祭りや小学校の運動会では、普段から交流している小・中学生や保護者、地域の方達も来られており、一緒に楽しむ機会となっている。自宅にいるご家族のことが心配な方は、職員が時間や回数等をご家族と相談して、毎日電話でお話できるよう支援されている。毎月、自宅で一泊する方は、寿司やうなぎ等をご家族と食べたり、お話をするのを楽しみにされており、自宅に帰る前には必ず、職員が同行して行きつけの理容店で散髪する習慣になっている。利用者の百歳のお誕生日記念に、管理者が事業所での暮らしを編集したDVDをご家族にプレゼントされて、ご家族にたいへん喜ばれた。利用者の米寿等のお祝いは、ご家族と一緒にお祝いできるよう、案内されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 身体機能や認知機能の低下に伴い、生活の中でご利用者同士と一緒に活動することは少なく、仲の悪い利用者がおられたり、トラブルになる場面が時々ある。御利用者同士の関係を把握して、協働しながらもトラブルが少なくなるように支援しているが、関わりが増えるよう取り組みを考えていきたい。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ホームを退居され、他の事業所へ移られる時も、情報提供を行ったり、御家族にも相談対応出来る旨を説明している。また、介護支援専門員とも情報交換を行い、サービス終了後もフォローが行えるよう取り組みを行っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個別の記録に思いや言葉を記入する欄をつくり、日常の会話の中から出来るだけ本人の想いを聞き取るようにし、記録することで、職員間で把握できるように努めている。また利用者それぞれに希望の献立を聞くなど、想いの把握に努める事を大事にしている。しかし、ご利用者によって希望の表出が難しくなっている方も増えており、どのように把握していくか検討し改善を図りたい。 (外部評価) アセスメントは事業所独自の様式で「生活の場面ごと」に情報を集めるようになっている。意思表示の難しい方については、職員が表情や言葉から気持ちを探ったり、以前のアセスメント等も繰り返して探られる。以前、ご本人が大事にしていた指輪を手放したという経験談をよく話される方には、おこずかいを貯めて、職員と一緒に指輪を買いに行ったようなこともあった。	今後さらに、利用者主体の暮らしを支援するためにも、利用者個々の思いや生活場面ごとの意向の把握に努め、一人ひとりがその人らしく暮らせるよう取り組まれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 介護計画作成時にご家族と一緒に検討し、色々なお話を聴ける機会が得られている。今後も本人やご家族との会話の中から必要な情報が得られるよう、個人記録を活用して記入し、情報共有できるように取り組みたい。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の申し送りにて、ご利用者それぞれの生活の様子を確認し、日誌に記入することで職員間で情報を共有できるようにしている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 介護計画は毎月計画作成担当者と職員で話し合い、モニタリングを行っている。そのモニタリングをもとに職員間で話し合い、介護計画の原案を作成し、原案をもとにして御家族、計画作成担当者、担当職員で協議して介護計画を作成している。介護計画はその方の想いを聴き取り、生活に即した内容となるよう注意している。</p> <p>(外部評価) 介護計画作成時には、ご家族にも案内して一緒に考えながら作成できるよう取り組まれている。利用者も参加する場合もある。参加が難しいご家族には電話や来訪時にケア等への要望を聞き、反映されている。モニタリングは毎月行い、介護計画は基本的に3ヶ月毎に見直しされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個々の記録には想いや言葉を記入する欄を設け、さらにケアプランの実践内容も記入するようしており、結果や気づき、本人の想いを記入することで職員間で情報を共有できるようにしている。また日々の中で起こる課題に対しては、日誌に対応方法を記入する欄を設け、実施、評価を行えるようにしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の状況にあわせ、職員で通院の支援をしたり、希望の外出や外食を出来るようにしている。また本人や家族の要望などにて買い物支援も行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近隣の小学校と交流したり、近所の喫茶店の方や美容室の方など少しずつ地域の方々の協力が得られてきている。今後さらに利用者が希望する生活を送ることができるよう、地域にある資源を把握し、関係性を深めていけるよう働きかけを行っていきたい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人や御家族が希望している医療機関に受診できるよう、入居時に確認をとり、連携が取れるように働きかけている。医療機関によっては訪問診療に来ていただけたところもあり、複数の医療機関との関わりを持ちながら、利用者個々の主治医と関係を築きながら、適切で本人が安心できる医療を受けることができるよう支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 現在、今後の看取り支援に備え、協力医院との医療連携について検討されている。毎日、訪問看護師が来訪し、利用者の健康状態をチェックしてくれており、利用者の状態についてアドバイスがある。又、事業所便り等からも、事業所の取り組みや利用者の様子も把握してくれている。職員が利用者の状態の変化に気付き、早めに受診し薬を変更したことで、症状が改善された事例がある。ご家族は、利用者の状態が心身ともに良くなったことを大変喜ばれている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 事業所に看護資格のある職員も配置されており、日々の健康管理や医療面での相談も行っている。また、利用者それぞれの主治医の医療機関の看護師とも気軽に相談ができ、状態変化時には相談や対応を依頼している。褥瘡のあるご利用者には訪問看護に入ってもらい、連携しながら治療を行っている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 利用者が病院に入院される場合には、入院時に本人に関する情報や支援方法に付いても医療機関に提供するようにし、入院中の本人のストレスや負担が軽減できるように取り組んでいる。また、主治医とも連携を図り、ホームで対応可能な段階を相談することで、早期の退院ができるよう支援している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご家族に、緊急時や終末期における意向の確認アンケートを行い、現時点での方針について確認を行っている。またターミナルが予測される段階のご利用者に対しては、ご家族と主治医、管理者が話し合うようにし、その結果を基にして職員会で話し合い、チームとしてどう支えていくか検討している。</p> <p>(外部評価) 2年前医師から終末期と診断された利用者があった。100歳を超える方で「最期までここで自然な形で」という利用者やご家族の希望に応じ支援しておられたが、じょじょに飲み物をご自分で飲んだりアイスを食べる様子が見られ、現在は、車椅子にも座れるまでに状態が安定している方がいる。管理者は、「利用者ご本人の生きる意欲と、職員の利用者への密なかかわりがあった」と話されていた。管理者は、今後さらに看取り支援について、外部研修を受講する機会を作ったり、内部研修にも採り入れたいと話しておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生に備えて、マニュアルを整備し、必要な機材の整備も進めている。また職員採用時及び年に1回は勉強会で学ぶ機会をつくっている。しかし、全ての職員が完全に出来るまでには至っていき、また不安を感じている職員もいるため、個別の研修も行いたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時のマニュアルを整備し、毎月避難訓練を実施している。海岸に面している為、津波に対する避難訓練も取り入れ、地震、津波、火災の複合的な訓練を実施しており、大分スムーズな避難が行えるようになってきていると思われる。今後も継続してどのような状況でも訓練通りに避難出来るように励みたい。 (外部評価) 火災・地震・津波等の想定で毎月避難訓練を実施しており、津波想定の場合には、避難所である高台の小学校まで車で避難する訓練が行われた。管理者は、車いすの使用が増え、「避難に時間がかかる」ことが課題と感じておられる。3月には、消防署立ち会いで日中の火災想定避難訓練を行い、避難誘導や2階ユニットの利用者を毛布にくるんで運ぶ訓練等が行われた。訓練後には、消防署の方から防災についてのお話を聞くような時間も作られた。米や缶詰等を備蓄されている。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室に訪室する際はノックをしたり、年長者としての言葉遣いに注意する等、入社時や職員会議時などに都度点検、話し合いを行っている。またそれぞれの生活リズムや体調に合わせて支援するようにし、食事や入浴について無理強いすることがないように取り組んでいる。しかし、認知症の進行などから理解が難しくなった方もおられ、どのようにコミュニケーションを図っていくか話し合って改善していきたい。 (外部評価) 居室から離れる際に鍵をかけることが安心につながる利用者は、鍵をかけることを職員に任せており、職員は利用者の行動等をみながら鍵の開閉をされている。管理者は、「一部の職員の利用者への声かけが気になる」と感じており、職員会で日頃の対応を振り返ったり、個別に話す機会を持つようにされている。調査訪問日の昼食時には、利用者への配慮が必要と感じるような職員の対応等が見受けられた。	職員の言葉かけや対応等について、振り返ったり点検したりする機会を作り、職員自身が気づき、改善に取り組めるような仕組みを作ってはどうだろうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の中での声掛けにも選択性を持たせることを大事にしている。その中でも希望の献立と一緒に本を見ながら決めたり、毎週選べる喫茶の日を設けるなどの取り組みを行っている。毎月の外食は写真にして店を選ぶことが出来るようにして、話し合っ行って行き先を決めるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 朝入浴したい利用者や、朝食を遅く食べたい方へはその人のペースを大切にし、希望にそって支援を行っている。また、利用者にもその都度聞く、確認するを徹底し、利用者の想いを大切にしている。しかし、まだまだ職員の都合を優先する場面もみられ、今後個別の職員研修や全体の勉強会で職員全体で考えながら取り組んでいきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望される方にはご家族と相談して一緒に服を買いに行ったり、散髪に出掛けたりしている。また化粧水やシャンプーなどの希望を一人ずつ確認し、実施できるように取り組んでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立は毎月利用者一人一人に希望の食べたいものを聞き、食べたいものが食べられるように取り組んでいる。また毎月外食に行き、メニューを見ながら食べたいものが食べられるように取り組んでいる。ただ、ご利用者が食事作りに参加することが難しくなってきたため、どのような形で食事を楽しんで頂けるように取り組むか検討したい。 (外部評価) 利用者全員の希望を毎月の献立に反映しており、調査訪問時も利用者の希望を採り入れて、すき焼き風煮物や、もやしのナムルを作っておられた。もやしは、利用者が根とりをされており、衛生に気を付け、すき焼きには、温泉卵が添えられていた。食事中、職員は「今日は〇〇さんがお好きなメニューですよ」と説明されていた。配膳や下膳、食器を洗ったり拭いたりする利用者も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は主菜と副菜2品を毎食提供するようにし、1日30品目を目指して献立を立てている。利用者個別に食事量や水分量を記録するようにし、摂取量の把握に努めている。ご本人の希望や状態に合わせて粥や刻み、ミキサー食にして提供したり、摂取量が少ない方には好きなものや夜食におにぎりを出すなどしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後一人一人の状態に応じて準備や声掛け、必要な方へは介助を行うようにし、就寝前には義歯の洗浄を行うようにしている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者はそれぞれトイレに行かれたり、自身で尿器にされるなどしている。失敗などがある方には、時間での声掛けをいくつか、適切な時間をアセスメントし、トイレ誘導ができるように取り組んでいる。車椅子使用になった方にも少しずつ立位訓練をしながらトイレでの排泄が行えるように支援している。	
			(外部評価) サービス向上委員会の「生活」担当職員は、今年度、「オムツはずし」に取り組まれた。排泄記録で誘導するタイミングをつかみ、又、立つことや歩行練習を支援して、トイレでの排泄につながるよう取り組まれた。現在、日中は、ほとんどの方がトイレで排泄されている。ご自分でパッド交換する方は、ベッド脇の棚に新しいパッドとそばにゴミ箱を用意されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日午前中は乳製品を摂取していただいたり、水分量を記録し、少ない場合には好みのものや、適時摂って頂けるよう声掛けを行い、便秘の予防を図っている。またファイバーを飲んで頂いたり、便秘時にはホットミルクを飲んで頂くことで改善される方もおられる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者さん一人ひとりの希望をアンケートし、好みの時間帯やシャンプー、石鹸の好みを把握したり、シャワーや掛け湯、浴槽に入る順番などの入浴習慣にそった支援が行えるように取り組んでいる。希望の方には早朝の入浴もできるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 週2～3回を目安に、湯船に浸かって入浴できるよう支援されている。浴室には、いろいろ試して香りや使い心地をみて選んだ個々の好みのシャンプーやリンス等が用意してあった。入浴を嫌がる方もいるが、希望をお聞きして起床時に入浴支援することもある。浴室のすりガラスの窓にはみどりの造花や植物を使って、外から気配が見えにくいようにされていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者には自室のドアを激しく開け閉めされる方も居られ、それが、他の利用者の安眠を妨げることもあるため、防音テープなどで対応を行っている。日中ではそれぞれ歩行訓練や立位訓練を行い、午後は昼寝をしたいというご希望の方はゆっくり自室で休むことが出来るようにしている。	
			(外部評価)	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が薬の内容を把握できるよう、薬の説明書を個人ファイルに整理して保管している。また、薬の処方の変更された場合には申し送りや受診記録表にて全員が周知できるように取り組んでいる。薬変更後の利用者の変化については、管理者と職員で話し合い、状態変化を見逃さないようにし、適切に医療機関に連絡ができるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者さんの希望を聞いて毎月外出を行ったり、近所の馴染みの喫茶店でお茶をするなど、楽しみが持てるように取り組んでいる。しかし日常の中で一人ひとりが力を発揮する場面がない為、今後少しでも生活に関われる役割をつくっていききたい。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月地域のお店への外出や、近所の喫茶店にお茶を飲みに行くなど、楽しみある外出を行っている。日常的にも海岸を散歩するなど、外出の機会を持つことを大切にしている。しかし個別の外出や希望の外出などの機会は少ない為、今後外出の時間の確保や希望の確認を行い、実施できるように取り組みを行いたい。 (外部評価) 海の近くにある事業所であり、天気の良い日は、砂浜を散歩したり、車いすを使用する方も防波堤まで出て、海風を感じることができるよう支援されている。毎月2回、皆で菊花展、コスモス等季節の花を楽しみに出かけたり、外食ができるよう支援されている。外食する場合は、できるだけ地域内にあるそば屋や和食店、喫茶店等を利用しており、定期的に利用することもあり、予約すると刻み食に対応してくれたり、時には、利用者が気に入ったコーヒーカップをくださったこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族と相談してお金を所持されている利用者の方もおられるが、ほとんどの方がお金の理解が難しくなっており、事業所で預かっている方が多い。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎朝ご自宅へ電話することを楽しみにされている方も居られたり、ご家族からの電話に付き添って会話が出来るように支援を行っている。毎年、年末には利用者一人一人が御家族に年賀状を送れるよう支援し、ご家族様から大変喜んで頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用空間には毎月の行事の写真などを飾り、季節感を感じて頂くようにしている。また食堂の配置やリビングの配置など、利用者の方の希望を聞きながら、居心地良く過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 交流のある小学校が、事業所に届けてくれる学校便りを、居間の壁面に利用者が見やすいよう拡大して掲示されていた。又、毎週来られている手芸の先生と一緒に作った折り紙の作品やちぎり絵、小学生からのメッセージカード等も飾られていた。対面式キッチンで食卓テーブルが近くにあり、食事ができる様子を利用者が見たりかわったりしやすい環境がある。職員も食事を作りながらテーブル席の利用者とお話し等されていた。海が見える側のソファで過ごす方もある。歩行器を使って廊下で歩行練習している方もあった。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の方のほとんどは車椅子を使用されており、共有空間ではほぼ決まった場所で過ごされることが多い。またほとんどの方は自室で過ごすことが多く、継続して環境づくりに取り組む必要がある。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者それぞれに使い慣れたタンスや家具を持ってこられたり、位牌や仏壇、御主人の写真を持ってこられたりされている。また、本人の希望で畳の部屋にされている方も居られたり、入り口には暖簾をつけ、自室内のプライバシーにも配慮するようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室のドアに利用者の目線の位置と、さらに取っ手の横に名前を記し、利用者の方が自室と確認できるようにしているところもあった。西側の居室の利用者は、広がる海原や海岸を歩き交う人の姿を見て過ごす方もある。市長からの百歳の表彰状やご家族が描いた似顔絵を飾ったり、ご主人の遺影を置いている方もある。こだわりの化粧水で肌の手入れをしたり、居室でテレビを見て過ごす方もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 車椅子の方も多くなったり、歩行が不安定になった方もおられ、廊下は広く移動しやすいようにしている。</p>	